

令和8年 第1回ヤングミーティング

テーマ『移住定住の促進／空き家の利活用』について

日時 令和8年5月26日(火)19:00～20:30

場所 市役所低層棟1階 市民交流スペース

- 移住・定住の決め手となった点、各務原市の良いところ
 - 交通の利便性が良い（名古屋・岐阜・空港へのアクセスが良い、駅の数が多い、車がなくても暮らせる）
 - 公園や緑が多い・公園の質が高い（学びの森、市民公園など）
 - 街灯（防犯灯）が多く、安心感がある
 - 子育て環境が充実している（良い保育園や、家族で楽しめる公園が多い）
 - 災害リスクが低い（ハザードマップで安全なエリアを選択した）
 - 程よく都会で程よく田舎で住みやすい、都会と自然のバランスがちょうど良い
 - 人とのつながり・面白い人材・活動拠点（那加駅前の古民家カフェなど）が魅力的である
 - 空き家リノベーション事業がある
 - 気候が良く暮らしやすい（豪雪地域と比べ、雪が少なく気候が安定している）
- 移住・定住促進のための提案
 - 交通の利便性・公園の魅力を一層PRする（特に若年層・子育て層向け）
 - 公園や中心地での楽しいイベントを拡充する
 - 住みやすさだけでなく、カルチャー拠点（小規模ライブハウスなど）や飲食店の充実など、他の魅力も創出する
 - イベント情報を一元化して先出しする（数カ月先までのカレンダー、内容の詳細を掲載し1つのポータルで見渡せるようにする）
 - 大学生・若者を取り込む（岐阜の大学在学中に各務原の良さを知った層へ将来メリットを提示する、SNSを活用する）
 - お試し移住・長期滞在の仕組みを作る（2～3年お試しで住んでみる→定住につなげる、戸建て賃貸を活用する）
 - 「行けば一帯が面白い」地区を創出する（エリアを選定しデザイン性の高いリノベを面的に展開）
 - 店舗を充実させる（古民家カフェ・ラーメンなど若者が集まる店舗、SNS映え拠点など）

- イルミネーション・祭り・シェアハウスなど若者を引き付けるものを創出する
- 空き家利活用に関する提案
 - DIY型リノベ事業を拡充・周知する（原状回復義務なしの魅力伝え、成功事例をモデル化する）
 - 空き家所有者と利用希望者のマッチングを強化する（所有者側の事情を深掘りする）
 - 情報の現実性を高めるためにウェブを改善する（賃料・購入費だけでなく固定資産税・維持費・初期改修費、DIY/業者依頼の概算等を明示する）
 - 早期介入（「空き家になりそう」という段階での相談・マッチング体制を整える）の仕組みを作る
 - お試し移住・長期滞在の仕組みを作る（2～3年お試しで住んでみる→定住につなげる、戸建て賃貸を活用する）
 - 空き家活用に関する補助制度を拡充し周知する
 - 「空き家」に代わる前向きな名称を検討する
 - 空き家アドバイザーへの相談体制を強化し、相談しやすい環境を作る
- 課題・留意点として出た意見
 - 市街化調整区域に関する情報が分かりにくい（「建築不可」と誤解する、権利が整理されていない物件や未登記物件が存在する）
 - 航空機騒音について：

不動産業者から「クレームはほぼない」という意見があったが、乳児が平日日中の騒音で泣くなど子育て世帯のストレスの声もあり、情報提供・相談先の明確化や配慮が必要である
- エリア・市場観の示唆
 - 市街化調整区域は北愛知からのニーズが強いため、価格優位で成約しやすい
 - 市街化調整区域は条件が揃わないと家を建てられないが、穏やかな暮らしができる

全体の方向性

- 各務原の強み（交通・公園・安全・土地の価格・人の面白さ）を核に、若者・子育て世帯・在学中の学生への的確な情報提供と体験機会（イベント・お試し居住）を拡充する
- 「空き家になりそう」という段階での相談体制を強化し、空き家の早期流通・活用ができるようにする
- DIY・モデル地区化・「空き家」に代わる前向きなネーミング再設計で、空き家をポジティブな資産へ転換する

- 空き家所有者と利用希望者のマッチング機能を強化し、所有者側の事情（なぜ空き家になったのか）を深掘りする
- 2～3年お試しで住んでみることで定住につなげていく仕組みや、相談しやすい環境を作る